

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(1)-ア	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進	施策	① 県民一体となった健康づくり活動の促進
			施策の小項目名	○食育の推進
主な取組	食育の推進			
対応する主な課題	①健康づくりのための取組を効果的に進めるためには、主体となる県民一人ひとりが健康の大切さを自覚し行動することが重要であると同時に、社会全体としても健康づくりを支援していくことが必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
近年の食に関する諸課題の解決のため、学校給食指導者、栄養教諭、学校栄養職員等の研修会等を実施し、学校における食育の推進に関わる関係者の資質の向上を図る。		21回/年 研修会等 開催数				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	教育庁保健体育課 【098-866-2726】					
食育担当教諭等を対象とした研修等の実施、学校給食指導の実施等						

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
学校給食研修事業費									OR3年度： 学校における食育推進のため、栄養教諭、学校栄養職員等の研修会を38回実施した。
県単等	直接実施	1,394	1,365	1,336	574	1,620	1,570	県単等	OR4年度： 学校における食育推進のため、栄養教諭、学校栄養職員等の研修会を21回実施する。
学校給食事業費									
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
県単等	直接実施	597	612	593	3,892	490	417	県単等	OR3年度： 学校給食の衛生管理の徹底を図るため、23カ所の県立学校調理場での拭き取り検査した。学校給食指導者研修会等はコロナ禍のため実施できなかった。 OR4年度： 学校給食の衛生管理の徹底を図るため、23カ所の県立学校調理場での拭き取り検査、講習会を2回、学校給食指導者研修会を5回実施する。

様式1(主な取組)

活動指標名	研修会等開催数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	45回	41回	43回	38回	38回	21回	100.0%	2,110	順調	<p>コロナ禍の為、多くの研修会が実施できなかったが、食育の推進、給食配膳室や教室での衛生管理、アレルギー対応等の内容について、WEB研修会や資料提供を通して実施した。食物アレルギーの対応については、積極的な資料提供を行い、「学校における食物アレルギー対応の手引」の活用の周知を行った。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			<p>栄養教諭や学校栄養職員、学級担任等を対象にした研修会等は実施できなかったが、経年研修等で38回の研修会を実施したため、進捗は順調と判断。 食に関する指導の全体計画については、全ての学校で作成されている。また、「学校における食物アレルギーの対応の手引」を活用している学校は約8割で、アナフィラキシーショックを起こした場合でも、エピペンを使用するなど、適切な対応ができています。</p>
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案								反映状況		
<ul style="list-style-type: none"> 朝食摂取率の改善等、実践力の向上を図るには、引き続き副読本の活用や家庭・地域との連携の実践例を学校と共有する。 引き続き、各種研修会において「学校給食における管理・指導の手引」の活用事例を周知し、学校給食への異物混入及び食中毒の防止を図る。 								<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の為、主な研修会等は実施できなかったが、資料提供や健康教育研究大会（WEB開催）において、食育の実践事例や食育学習教材（副読本）活用方法等の情報を発信・共有することができた。 文書等の発出や、経年研修等において、学校における食物アレルギー対応の手引の活用の周知等を行い、栄養教諭等の資質向上を図った。 		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

○外部環境の変化

・厚生労働省の2015年都道府県別平均寿命で、沖縄県は女性が前回調査の3位から7位へ、男性が30位から36位へと後退した。

・男性の肥満者の割合は、20代では約2割と全国とほとんど変わらないが、30代では約4割と全国より高く、その後各年代層を通して全国より高い。女性は20代で約2割となり全国より高く、その後各年代層を通して全国より高い。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・各種研修会において、副読本の活用事例の紹介や保護者への食育の啓発、家庭・地域と連携した取り組み等を紹介し、家庭や地域と連携した食育の推進を図り、朝食摂取率の改善等、実践力の向上を図る必要がある。

・衛生管理の一環として、「学校給食における管理・指導の手引」の活用を周知し、学校給食への異物混入及び食中毒の防止に努める必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・朝食摂取率の改善等、実践力の向上を図るには、引き続き副読本の活用や家庭・地域との連携の実践例を学校と共有する。

・引き続き、各種研修会において「学校給食における管理・指導の手引」の活用事例を周知し、学校給食への異物混入及び食中毒の防止を図る。

様式1(主な取組)

活動指標名	食に関する指導の全体計画				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	100.0%	0	順調	「高校生の食育推進モデル事業」に係るBDHQ栄養調査報告書を作成・配布した。 ※BDHQ調査とは、通常の食事から習慣的に摂取している栄養素量を、比較的簡便に調べるものである。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案								反映状況		
<p>・本県高校生の食の実態を把握するとともに、「高校生の食育推進モデル事業」に係るBDHQ栄養調査報告書や「食に関する指導の手引(第二次改訂版)」を参考に、各学校における食に関する指導の全体計画の作成を促し、計画的な食に関する指導の充実を図る。</p>								<p>・「高校生の食育推進モデル事業」に係るBDHQ栄養調査報告書を配布し、食に関する指導の全体計画作成を促した。</p>		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・高校では学校給食を実施していないため、栄養教諭等の配置がなく、食育は体育科や家庭科等の関連教科が中心である。そのため、食に関する指導が十分行われていない状況がみられる。

○外部環境の変化

・国の第3次食育推進基本計画では、これから親になる若い世代を中心とした食育の推進を重点課題の一つとするとともに、子どもから高齢者に至るまで、生涯を通じた取り組みを目指している。

・県内の高校生の朝食欠食率は23.3%(R1)と小中学生に比べて高い。生活習慣の乱れなどが原因の一つとして考えられる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・高校生の朝食摂取率を改善するためには、「高校生の食育推進モデル事業」に係るBDHQ栄養調査報告書をもとに各学校における食に関する指導の全体計画を作成し、計画的・継続的な食に関する指導が必要である。

4 取組の改善案 (Action)

・本県高校生の食の実態を把握するとともに、「高校生の食育推進モデル事業」に係るBDHQ栄養調査報告書や「食に関する指導の手引(第二次改訂版)」を参考に、各学校における食に関する指導の全体計画の作成を促し、計画的な食に関する指導の充実を図る。